



3番機

6番機



2

喜んでくれる人たちのために
年間20回以上の展示飛行を行なう第11飛行隊。ブルーインパルスのパイロットの任期は3年です。
3年目の橋本さんは、すでに30回以上の展示飛行を経験。現在は、前席で操縦をしています。「航空祭などでフライトして降りてくると、子どもたちが目を輝かせてくれていて。楽しかったよ。また来てね」と手紙を書いてくれる子もいます。リアクションを直接感じることで、できるの、その時はうれいすね。私がパイロットを目指したように、子どもたちがパイロット格好いかなと思っって目指してくれるようになったら、それが一番うれいかな」
上原さんは1年目。これまでに5回ほど後席で展示飛行を経験。「私も感動を受けたほうなので、良かったよとか、感動したよとか、声を直に聞くのが一番うれいすね」

好きだから、頑張れる
戦闘機と違い、自衛隊に親しみを持ってもらおうよう広報活動を行なうのが第11飛行隊の主な任務です。
配属当初を振り返る橋本さん。「ブルーインパルスに乗り始めた当初は、戦闘機に乗っていたころと全く違う訓練になり、背面飛行や近距離（約1m）での編隊飛行など、慣れるまでとても時間がかかりました。初心に帰って一からスタートという気持ちでした」
「常に全力で頑張ってきた。他に代えがきかない、私たちにしかできない仕事です。また、我々の展示飛行を披露することで、航空自衛隊の飛行技術の高さを国内外にアピールできます。これは私の誇りです。きつくて辞めたいと思ったことはありません。やりたいと思っってやっっているし、やりがいを感じています」と力強く語りました。
上原さんは、今春の展示飛行デビューを控え、展示飛行操縦士の資格を取るために訓練中。自衛隊の入隊当初は、同期との共同生活をはじめ規律や訓練なども厳しかったそうです。「今の任務は、編隊飛行とかすごく難しいですね。苦労しています」と苦笑いしながらも、「フライトが楽しい。きつくて好きなことを仕

事にできている。また、家族の支えがあるから頑張れます」と笑顔で話してくれました。
夢を諦めないで
機体もエンジンも国産の航空機。これに日本人のパイロットが乗り、これだけのパフォーマンスができる。このことを広く知ってもらい、一人でも多くの人に笑顔になっほしいという二人。
「春から上原が展示飛行できるようになります。彼がデビューして私の任期が終わる8月まで、ブルーインパルスの右翼は合志市出身になります。そこにも注目して欲しいですね」と橋本さん。
上原さんからは「九州内の航空自衛隊は、福岡県の築城・芦屋基地、宮崎県の新田原基地があります。航空祭にぜひ足を運んで僕らを見に来てください」とのメッセージ。
最後に二人から合志市の子どもたちへ。「初めは大きい夢を持っいても、途中で無理だ」と目指さない夢もあるかもしれない。でも、私たちはパイロットを目指し、一生懸命頑張ってきて今があります。子どもたちには、始めから諦めたりしないで一生懸命真っ直ぐに頑張っしてほしいと思います」と、エールが送られました。



【ブルーインパルス】

宮城県松島基地の第4航空団に所属する第11飛行隊。全国から選ばれた12人の精鋭が所属。航空自衛隊の存在を広く知ってもらうため、航空自衛隊の航空祭や国民的な大きな行事などで華麗なアクロバット飛行（展示飛行）を披露する専門のチーム。青と白にカラーリングされた6機の機体が、大空を舞台に糸乱れぬ編隊飛行で大迫力のパフォーマンスを展開。展示飛行中の速度は約800km/h、パイロットの体にかかる重力は約6G（地上の約6倍）と言われ、操縦には高度なテクニックと体力を要する。



はじめから「夢」だとあきらめない。

合志市から飛び立ち、航空自衛隊でブルーインパルスのパイロットとして活躍する橋本健二さんと上原広士さんにお話を聴きました。

はしもと けんじ
左・橋本健二さん (33)

西合志東小-西合志南中-熊本学園大学付属高等学校出身。平成13年度に航空学生として入隊。平成25年8月から松島基地の第4航空団11飛行隊に所属。6番機前席でブルーインパルスを操縦し、後輩パイロットの指導も行なう。

うえはら ひろし
右・上原広士さん (30)

西合志東小-西合志南中-熊本北高等学校出身。平成17年度に航空学生として入隊。平成27年8月から同隊でブルーインパルス3番機後席に搭乗し、時には展示飛行中のアナウンスなども担当。今春から展示飛行で操縦を担う。

パイロットを目指したきっかけ

「高校生のころ、将来何になりたいかを考えたときに、戦闘機に乗るパイロットになりたいと思いました」そう話すのは、航空自衛隊に入隊して15年目の橋本さんです。同じく航空自衛官だった父親の影響もあり、戦闘機のパイロットは身近な存在で、かつこよく見えました。橋本さんは航空学生として入隊後、数年の訓練期間を経て操縦士としての資格を取得。F-15戦闘機に7年ほど乗っていましたが、4〜5年目のころ、あらためてブルーインパルスを見たときに「難しそう」「やってみよう」と興味をもちました。

一方、上原さんもパイロットを志したのは高校生時代。「パイロットは理系のイメージ。高校で文系に進んでしまったので無理かなと思っっていたんですが、航空祭で見たブルーインパルスの展示飛行に感動して、自分も乗っみたいと思っました」その後、航空自衛官の叔父を通じて航空学生という制度を知りました。父親に無理だと言われても、なにくそ精神であきらめずに航空学生を受験し、入隊。あこがれた夢への第一歩を踏み出しました。そして昨年8月、入隊10年目にしてブルーインパルスを操縦する第11飛行隊に配属されました。



6



5



3

1 6機のデルタ隊形 2 橋本さん(左)と上原さん(右) 3 5番機と6番機によるアクロバット飛行 4 6番機による操縦席から降りた橋本さん(中央) 5 航空祭での展示飛行 6 6機のブルーインパルス(右端は予備機)



8

7